



スクッピーだより

【発行】調布市子ども発達センター
〒182-0032 調布市西町290-49
TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@city.chofu.lg.jp

第2号

- 1 ページ
市民講演会の報告
- 2 ページ
センターの教材紹介
- 3 ページ
防災について
- 4 ページ
「発達が気になったら手に取るガイド」の紹介

市民講演会を実施しました

令和6年10月8日に、公認心理師の市川奈緒子先生を講師にお招きし、「発達が気になる子の自己肯定感を育むために～“自分のままでいい”“この子のままがいい”～」をテーマに、市民講演会を開催しました。

大人から見て発達が気になるお子さんは、周囲と自分を比べて自信を失ってしまうことがあります。お子さん自身が、「ありのままの自分でいい」と思えるためのヒントをお話しいただきました。

●市川先生のお話し（講演会の要約）●

- ・大人が“困ったな”と感じるお子さんの行動の背景を知るためには、お子さんをしっかり見たり、本人から話を聞くことが大切です。
- ・お子さんについての理解がより深まることで、大人はお子さんの気持ちに寄り添った関わり方ができます。また、お子さんは“自分を理解してもらっている”という安心感が得られ、それが自己肯定感につながっていきます。
- ・お子さんだけでなく、保護者の方の相談相手を見つけることも大切です。
- ・難しく考え過ぎず、お子さんにとって“明日を楽しみに生きていけること”や“生きることに希望をもてること”が大切であり、そうしたことが自己の肯定につながっていきます。



●参加者の感想●

- ・何かが「できた」ということだけではなく、「今が楽しい！」と思えることが自己肯定感を上げることに気がきました。
- ・脳の覚醒レベルや、感じ方の特徴という視点から子どもを理解するというお話が参考になりました。
- ・一生懸命子どものことを考えてくれる大人の大切さがわかりました。



子ども発達センターでは こんなアイテムを使っています

子ども発達センターでは、楽しい環境の中でお子さんの力を引き出していけるよう、さまざまなアイテムを活用しています。中には、職員のアイデアから手作りしたものもたくさんあります。

今回は、課題の目的と、活用している手作りアイテムの一部をご紹介します。

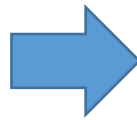
『あつまり』で使う教材

風船ルルル

いろいろな色の風船の絵が、「1、2、3!」のかけ声で、食べ物や動物などの絵に変わります。色を手がかりにして、何が出てくるか、予想しながら期待して注目します。絵や色の名称を大人と確認したり、一緒に歌を歌って楽しめます。絵がパッと変化するので、お子さんの興味や注目を引きやすく、2歳児グループでは人気のアイテムです♪



きいろいふうせん
ルル〜ル〜♪
「1.2の…3!!」



へんし〜ん!!
きいろいバナナに
なった〜♪

手遊び『はじまるよ』

「はじまるよったらはじまるよ〜♪」の歌でおなじみの手遊び『はじまるよ』のペープサートです。

手を動かすことが難しくても、手遊び歌を見て楽しむことができます。数字や絵を見ることで、歌詞とイメージが結びつきます。グループで複数人いるときは、お子さんが一つずつ絵を持って、順番を待ちながら歌に合わせてクルッと回して取り組むのも楽しいです♪

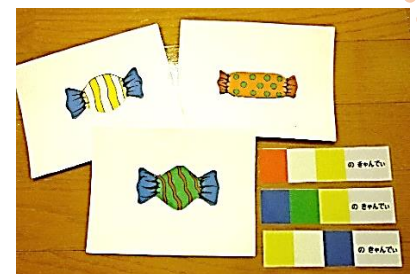


カードを使った教材

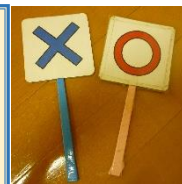
キャンディマッチングゲーム

子どもたちの好きなお菓子をテーマにした教材です。1色から3色に塗り分けられたたくさんのキャンディの中から、指定されたものを探します。

初めは色カード（画像右下）を見て記憶し、同じ配色のキャンディを探すことから始めます。できるようになったら、探すキャンディーの色を聞いて覚え、憶えた色のキャンディを探すなど、難易度に変化を加えます。



それぞれの課題の中で、目的をもちながら、お子さんが「楽しい!」「もっとやりたい!」と思えるよう、考えながら取り組んでいます。他にもさまざまなアイテムを活用しています♪



災害時の備え ～子どもの日常に近づけるためにできること～

昨年、能登地方や九州地方で起きた地震をきっかけに、南海トラフ地震への警戒がさらに高まっています。

「災害対策」を考えるとき、備蓄品や連絡手段の確保をする方が多いかと思いますが、それだけではなく、日常生活がガラリと一変するため、さまざまな不安や不便に備えることが必要です。感覚の偏りやこだわりなどにより、環境の変化に人一倍敏感なお子さんには、より多くのストレスがかかると想定されます。

今回は、それらのストレスを少しでも軽減できるよう、災害の備えとしてどんなことができるのか特集しました。ご家庭で参考にしてみてください。

～災害の備え・意識しておくことは？～

●地震、津波、避難生活の見通しを伝えておく

地震のメカニズムや避難生活の見通しなどを日常から伝えておくことで、いざ災害が起きてもパニックにならず対処できることがあります。子どもが好きな絵本や漫画を使うと、よりわかりやすく理解できます。



●食べ物、飲み物は「好んで食べる物」「食べ慣れた物」を用意する

災害時における「これしかないから食べなさい」は、お子さんには通じないかもしれません。食べ慣れたもので保存がきくものを備蓄として備えておく、食べられるものを少し多めに買って置き、消費しながら買い足すことで非常時に備えることを検討してみましょう。

試食会を開いて、友達や家族と一緒に楽しみながら食べることで、食べられるようになることもあります。



●安心スペース、安心グッズを用意する

お気に入りの毛布、1人になれる小さいテントなどを用意しておくと、避難所でも落ち着いて過ごせる時間を確保しやすいです。聴覚過敏の人には、周囲の雑音を遮ってくれるイヤーマフがおすすめです。

また、苦手な臭いがあるとより強いストレスになります。好きな香りであれば安心するので、お気に入りの芳香剤や消臭剤を避難グッズに入れておくのもよいでしょう。



●お薬手帳の内容をスマホで記録しておく

医師から常用薬を処方されている場合、普段からお薬手帳を持ち歩くこと、また、薬の内容をスマートフォンで撮影したり、お薬手帳アプリを設定しておくと、いざという時に役立ちます。

●危険から身を守る術を伝えておく

就学を控えるお子さんは、どこかに閉じ込められたときに床や壁などを叩く、ブザーや笛を持たせるなど、助けを求める手段を身に付けておくのも大切です。通学路と一緒に歩き、近寄ってはいけない場所を確認して地図に書いておいたり、災害時の帰宅ルートを考えておくのもいいですね。



他にも、HPなどでさまざまな災害時対策が紹介されています。記事を読んで興味を持った方は、ぜひ調べてみてくださいね。

知っていますか？

お子さんの発達が気になったら 手に取るガイド

- ・ことばがゆっくり？
- ・落ち着きがないように感じる
- ・集団の活動に入れない
- ・就学後の相談先が分からない



こうした保護者の心配ごとについて、まずは相談したり、支えてくれる人や場所を見つけるために、「**お子さんの発達が気になったら手に取るガイド**」を作成しました。

☆就学前から、小学生、中学生、高校生までのお子さんを対象に、発達が気になったときの相談窓口を紹介しています。

☆お悩みや年齢に合った相談窓口や連絡先を集約し、パンフレットで分かりやすく掲載しています。



《配架場所》

- ・子ども発達センター
- ・地域福祉センター
- ・すこやか
- ・あくろす
- ・市内児童館
- ・調布市役所（障害福祉課，子ども政策課，児童青少年課，など）
- ・プレイセンター（せんがわ・ちょうふ）

など、市内の子どもに関わるさまざまな施設にあります。

詳細は、こちらの二次元コードからHPをご覧ください↓



「こんなことも相談していいのかな」「子どもとの関わり方がわからない」「第三者から相談をすすめられたが、どうしていいかわからない」など、悩んでいたなら、一度手に取ってみてください。

